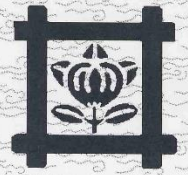




落慶報告式当日の御宝前



圓  
頓  
寺  
た  
よ  
り

発行所

山鹿市山鹿55

圓頓寺

☎43-2424

第三十四世

順境院日攝

合掌。謹んで新年を寿ぎ  
申し上げます。旧年中にお  
きましては檀信徒の皆様方  
には菩提寺の興隆に際し、  
種々ご高配を賜り洵にあり  
がとうございました。本年  
も何卒よろしくお願い致し  
ます。

特に昨年、宗祖日蓮大菩  
薩御降誕八百年慶讃及び、  
圓頓寺開基四百年慶讃の二  
大慶讃として本堂並びに山  
門・鐘楼堂の大改修が落慶  
円成出来得ましたことは、  
仏祖三宝諸天善神の擁護は  
もちろんのこと、偏に檀信  
徒御一同の御信心のおかげ  
であります。大いなる感謝  
を申し上げる次第でありま  
す。

落慶式が相成り寺観は一

新しました。山号「常明山」  
のように常に明るい境内伽  
藍が整いました。



改修成った山門

今まで以上にお気軽にゆつ  
くりと御参拝いただければ  
幸甚であります。

大改修を終えての住職と  
しての所感を少々。

さて昨今は古民家云々。  
ただし古い建物を維持する  
ことは大変であります。殊  
に、寺院の本堂ともなると、  
建物の大きさ旧さはもちろ  
んのこと、信仰の領分も合

わさり、護持していくことは甚だ容易ではありません。当山の本堂も江戸の嘉永二年の建立。築およそ百八十年。建方に十四年。足して二百年弱の建築物であります。

九年前に住職になって、しばらくして雨漏りが顕著となりました。いくつもタライを置いては雨をしのぐ。在寺中はもちろん、出先で豪雨に遭うと肝を冷やすこ



落慶式：開眼供養の住職上人ら

と度々でありました。原因は明瞭。屋根瓦の劣化にあります。耐用年数を優に超えているのでした。それなら瓦を葺き替えば良いのですが、いかんせん二百年の代物。建物基礎は簡易な東石であり、二百年の重量と星霜により、地盤が不安定な状態となっていました。よって柱に歪みと傾斜が生じているのであります。

瓦を替えるには揚屋にて柱の傾斜を直さなければなりません。柱の傾きを直すには基礎の強化が必要となります。地中の基礎から棟の鬼瓦までの大工事となるわけです。よって、抜本的な大改修を行わなければ、将来への堂宇保持は甚だ困難な状況になってしまいます。幸いに本堂の中心をなす主要な柱や梁は傾斜こそあれ、

工期中、日々に寺社専門の設計士や宮大工の方々と接しながら、日本の古式建



改修・整備された本堂

いまだ頑強。それに付随する秀逸な彫刻装飾も年月の風合いを加味し、立派であります。

三年前、改修工事の機縁は熟し、おかげをもって旧年六月十日、無事に落慶式を迎えることが出来ました。



郷土に生まれて味ひとすじ

仏・祝会席・鉢盛・寿司



中町店 ☎ 44-0055

仕出部 ☎ 44-5804

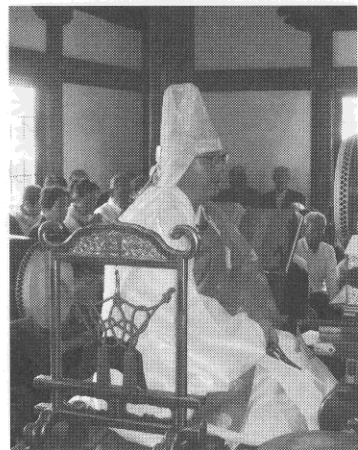


住職・院首夫妻と総代さん

築の永続性についてご教示いただきました。  
 日本は雨が多く湿度湿気も高く、地震や台風も多い国です。かつ木造を尊ぶ気質。木造には水が大敵のこと。どうしても雨漏りや土地の水捌け、そしてそれに付随する白蟻により、材木は年月と共に傷んでしまいます。これは仕様がな

そうです。そこで、一般的には、百五十年から二百年ごとに大改修を施し、傷んだ部材を取り換えることにより、主要な材木を保持し、その建物を永続させていくそうであります。  
 日本最古の木造建築である法隆寺であっても、千二百年前の材木がそっくりそのまま現存しているわけではありません。時代に応じた改修を繰り返して現存しているのではありません。木造の永続性に関する、先人の知恵は偉大であります。  
 当山の本堂も老朽化は著しく、熊本地震にても傾斜拡大、半壊にて持ちこたえはしたものの、雨漏りや白蟻の被害、当改修により天井小屋組みと床下の床束は総替え。一部の柱も取り換えになりました。しかしな

「仏の滅後において四味・三教等邪執を捨て実大乘の法華経に帰せば、諸天善神ならび  
 がら、この度の工事によつて、主要な柱や梁、その彫刻を含め、次の二百年に亘り、計四百年と永続できることは、住職としては、堂宇の保持という責務の一端は果たすことが出来、景況感定まらぬ昨今を鑑みれば、円成を迎えたことは、まさに法華経の仏天の御加護の賜物であると、感謝の念、只々こみ上げる次第であります。

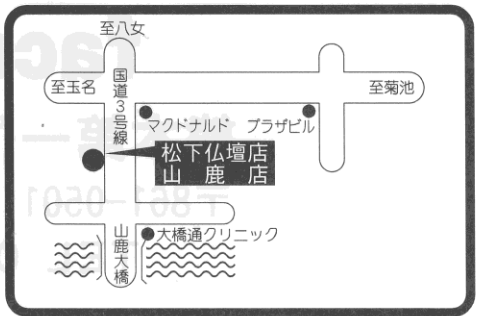


落慶式・導師席の住職

仏壇・仏具専門店  
**まつした**  
 株式会社 松下仏壇店

- 大牟田本店**  
 大牟田市上町2丁目2 上官通り  
 ☎0944-56-3675
- 熊本店**  
 熊本市中央区上水前寺1-12-12 (東バイパス熊工前)  
 ☎096-384-5666
- 玉名店**  
 玉名市中平畑1832 玉名高校入口  
 ☎09687-4-4840
- 山鹿店**  
 山鹿市大橋通り404  
 ☎0968-43-5665

●仏具のご注文がございましたら、多少にかかわらず配達いたします





落慶式：お箏献奏を聴く参列者

に地涌千界等の菩薩、法華の行者を守護せん。この人は守護の力を得て本門の本尊・妙法蓮華經の五字を以って閻浮提に広宣流布せしめんんか。」

『顯仏未来記』

日蓮大聖人の御言葉のごとく、法華經への強い信仰をもつて大事に臨めば清き大願は必定に成就するものなのです。法華經弘通の拠点としての古宇の復興。住

職としては落成後のこれらが責務は重大であります。一層の精進を自分に課し、山鹿市(旧鹿本郡市)における本妙寺直末格かつ江戸期開基、唯一の日蓮宗寺院として、この霊場において広

「汝等よ当に前進すべし。これは化城なるのみ。我は汝が疲れ極まりて、中路に退き還らんと欲するを見るを以て、故に方便力も以て、権りに、この城を化作せるなり。汝は今、勤に精進して、当に共に宝所に至るべし。」

『妙法蓮華經化城喻品第七』

今回は『妙法蓮華經化城喻品第七』の章段を学習してまいります。この章段の経題が表わすように、こ

## 法華經と御遺文の学習

宣流布の仏意を全うしていく所存であります。温故知新をなぞり、温「古宇」知「真」。古宇を温めて真を知る。所感。淨行を成して。再拜。

ここでは法華七喻のひとつであります、化城宝処の喩えが説かれています。旅人たちが財宝を探しに行きます。いくら歩いて探しても目的地に着くことが出来ません。長旅となり心身が衰弱し諦めて途中で帰ろうとするものが出てきます。そこでリーダーは仮の休息所(お城)にて英気を養わせ本来の目的を思い出させ、再び歩を強め、おかげで財宝を得ることが出来た

# この街と生きていく face to face

熊本第一信用金庫 山鹿支店  
〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1616-7  
TEL 0968-44-4125



(大日蓮出版)

というお話です。この喩え話では、旅人が私たちのことです。リーダーは仏様。財宝が法華経になります。したがってお話の本意は次のようになるわけです。

私たちは仏様の最高の教えである法華経を求めながら、法華経に出会うということは大変な精進が必要になります。大抵の人たちは道半ばで諦めてしまします。仮の教えに妥協してしまいます。これは仏様の本意ではありません。仏さまの方便の教えにて休息を与

えはされますが、方便は所詮方便。決して本当の教えではありません。

つまり、怠りの心によって、また誤った自己判断にて、決して方便の教えにて留まってはいけないということなのです。精進をもって進んで行けば、必ず、法華経という最高無比の宝物があり、それを得ることが出来るのですから。仏様の本意がどこにあるのかを经文から察することが大事なのです。

「現在の大難を思ひつづくるにもなみだ、未来の成仏を思ふて喜ぶにもなみだせきあへず。鳥と虫とは鳴けどもなみだをちぎ。日蓮はなかねどもなみだひまなし。このなみだ世間の事には非ず。ただひとへに法華経の

ゆへなり。もししからば甘露のなみだともいいつべし。」 『諸法実相鈔』

続いて日蓮大聖人の御言葉の学習です。この御文章は、文永一〇年（一一七二）御年五二歳、佐渡一谷の粗末な御草庵にてしたためられたものです。

現代語に訳しますと以下のようになります。

「現在の大難を思いながらも涙、未来の成仏を思っても涙がとどめもない状態であります。鳥と虫とは鳴いても涙を落とさないけれど。日蓮は泣かないが涙は乾くひまがないほどであります。この涙は世間一般の私情で流しているのではなく、ただひとえに法華経のためであるから、甘露の涙ともいえるのであります。しょう。

セレモニーホーム

宮川葬祭 TEL (0968) 43-2211

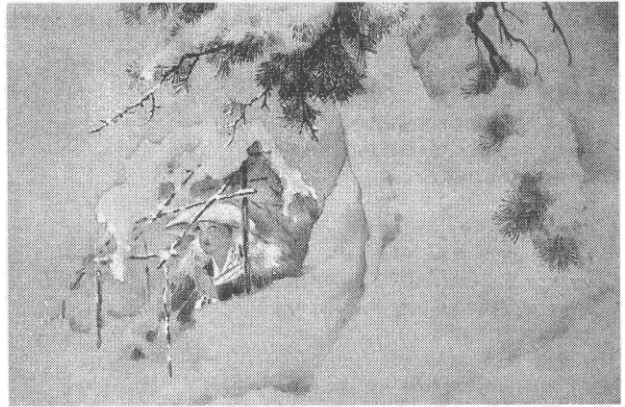
フリーダイヤル 0120-45-0948

山鹿  
天龍会館

TEL (0968) 44-0444

日蓮大聖人の法華経弘通に徹せられた尊い御生涯には、多くの困難にお遭いになられました。その代表的なものが四大法難とよばれるもので、そのひとつであります佐渡法難中の書物の一節になります。

日蓮大聖人の佐渡流罪中の御生活は極めて厳しいものでありました。雪国でのお住まいは粗末な御堂にて



塚原三昧堂(絵で読む日蓮大聖人の御生涯)



護持会会長 栗原辰也

# 一致協力に感謝

起居され、屋根や壁の隙間から雪が板間に降り注ぎ堂内に雪が積もるといふ有様でした。このような過酷な境遇の中四年三冬、お過ごしになられました。想像を絶する中、日蓮大聖人は屈することなく精神的にご修行、ご執筆に邁進されました。

日蓮大聖人の支えは法華経の強固な御信仰でありました。法華経弘通のためなら

末謹んで新年のお慶びを申し上げます。檀信徒の皆様方には、お家族お揃いで良き新年をお迎えのことと存じます。旧年中は菩提寺興隆にご支援、ご芳志を賜りまして、誠にありがとうございました。衷心より感謝を申し上げます。

らば、大難さえも喜びに転ずる堅固な御心。故に、お嘆きはなさらないけれども、うれし涙は眼を乾かす暇もないと、精進法悦を誇らしげに叙述されておられます。

私たちは日蓮大聖人の御弟子であります。日蓮大聖人のように、いかなる環境におかれても、それに左右されない強い信仰心をもって、精進しなければなりません。



お題目からはじまる。

ビル新築工事から増改築まで何でも致します

住宅金融公庫其他手続代行

有限会社 **井上組**

井上 勝 介

熊本県山鹿市下吉田691番地

TEL. 43-2204

朝日新聞

山鹿専売所

山鹿市上広町344の7

☎ 43-2664

藤本 俊 範



落慶式・栗原会長（前列右から二人目）

半長年の懸案でありました本堂大改修、併せて山門・楼堂改修は、平成二十七年の護持会総会で建設準備委員会の承認をいただき、総代・顧問会で工事諸議案などについて検討し、平成二十八年三月の護持会総会において建設委員会設立の承認をいただき、工事見学会や六回に及ぶ建設委員会を重ね、同年師走の臨時護持

会総会にて満場一致で本堂改修の承認を賜り、以来二十九年四月十二日起工式・工事安全祈願祭、仮本堂設置、解体及び基礎工事と順調に進み、十一月一日上棟式を行い、無事故も無く改修工事が完了し、昨年六月十日本堂大改修落慶報告式には檀信徒の皆様始めご来賓の方々のご出席をいただき、盛会の中にお祝い致すことが出来ました。特に、圓頓寺の檀信徒であられる蒲島熊本県知事にも報告式後半から出席いただき、かつ、祝宴ではご挨拶も賜り、ありがとうございました。これも、檀信徒の皆様方のご寄進と一致協力の賜ものです。深く感謝を申し上げますと共に、今後共に菩提寺の興隆にご支援・ご協力を重ねて御願い申し上げます。



お会式で焼香する原総代

新年あけましておめでとうございます。旧年中は護持会会計にご協力を賜り、また、六大法要や護持会総会・寒修行・婦人会・合同大

# 改元の新年を迎えて

護持会会計 原文雄

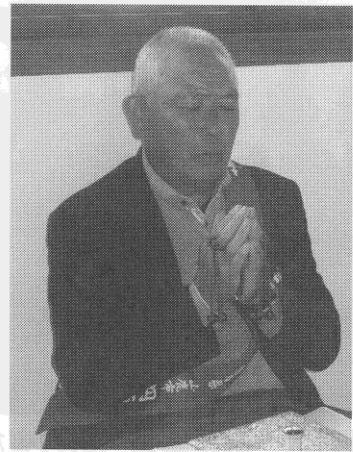
次第です。本年は例年になく暖冬予報とのことですが、寒さ厳しい季節の到来となります。

健康に十分留意致されまして、良き一年となりますようご祈念申し上げます。合掌

掃除・除夜の鐘などの諸行事にもご協力いただき、ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成二十八年から建設委員会で話し合いを重ね、翌二十九年から本堂の大改修、併せて山門、鐘楼堂の改修が行われました。私は初講、寒修行、鬼子母神大祭、立教開宗会・大黒天祭りなどの行事や、総代会・総会・役員会でお寺に行った時、一年二カ月余の時間をかけて本堂が出来上がっていくのを見るのが、楽しみでした。

お会式で合掌する原総代



落慶式は、昨年六月十日に檀信徒各位、ご来賓、そして思いもかけず式後半から蒲島知事にもご参加いただいた、無事に終えることが出来ました。護持会の皆様からご寄進、ご支援があったからでございます。衷心より御礼申し上げます。本年度は、新しくなった本堂で新年を迎えることが出来ました。身に余る思いになりました。お盆会追善お施餓鬼法要は今後二〇〇年は大丈夫と言われています。土用丑の日、昨年七月の「土用丑の日ほう

ろく灸祈祷・お盆会追善お施餓鬼法要」が第一回目の法要、次いで十月の「宗祖日蓮大聖人報恩お会式法要」「山鹿城主・山鹿重安公一族郎党供養法要」、十二月には「荒神大祭・お焚き上げ会」が行われ、続いて六大法要他いろいろな行事が行われます。楽しみでございます。■ 本年は、天皇陛下が退位

### 大改修の本堂で初の法要 ほうろく灸・孟蘭盆法要

二週間前に発生した平成三十年七月豪雨（西日本豪雨）により二三〇人以上の方が亡くなった梅雨が明けたとたん、命が危険にさらされるような猛烈な暑さが続いていた七月二十日、「土用丑の日ほうろく灸祈祷・お盆会追善お施餓鬼法

され、新天皇が五月一日に即位されるといいう、めでたい節目の年となります。圓頓寺におきましても、本堂改修後の新年と、めでたい年でございます。何かと出費が多い中ですが、護持会会費の納入にご協力をよろしく願います。南無妙法蓮華經

要」が行われました。暑さゆえか、平成の大改修で見事に蘇った本堂、エアコンがきいた本堂での初めての法要でしたが、参詣された檀信徒の方が少なく残念に思いました。ほうろく灸祈祷  
法要はまずほうろく灸祈

大小宴会・会食

## 横手会館

山鹿市九日町(八千代座前)

### 割烹よこて

祝儀・仏事・会席・鉢盛・折詰

## 横手仕出し

TEL. (0968) 43-2206

肥後銀行前 TEL. 43-7500



が行われ、素焼きのお皿(ほうろく)にお灸を盛って火をつけ、申し込まれた檀信徒が頭、肩、腰、膝などに当て、住職英人上人、秋吉上人、福山上人により読経、妙法蓮華経方便品第二、妙法蓮華経如来寿量品第十六などが続き、切火、木剣修法、撰経(法華経の巻物)により加持祈祷が行われ、住職がお申し込みの檀信徒の名前を読み上げながら、



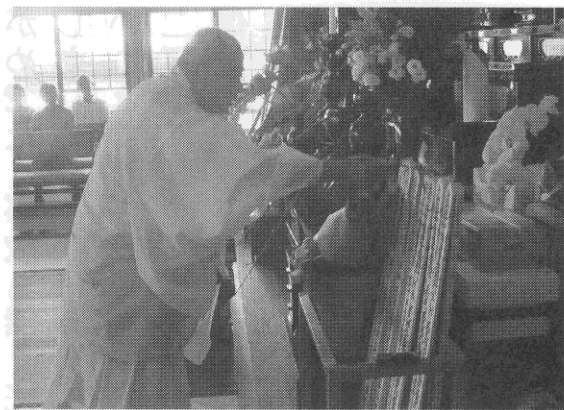
ほうろく灸祈祷するお上人

諸病除け、頭痛・諸病封じを祈っておられました。

■ 孟蘭盆お施餓鬼法要 ■

休憩後、半鐘が叩かれ、お題目で導師の住職英人上人と院首英知上人、秋吉上人、福山上人、松尾上人をお迎えし、お盆会追善お施餓鬼法要が行われ、御宝前を住職が払子、焼香で清め、改修・整備された導師席に着座して始まりました。読経が続く中、婦人会瀬口会長、木下副会長、伊豆永事務局によりお祖師様、清正公様、鬼子母神様へのお給仕である供膳奉納がありました。また、秋吉上人により灑水(しやすい)道場や法具などに香水をかけ、煩惱や穢れを除く、きよめの儀式)を奉修されました。法要が終わってお題目で式衆が退堂されました。

住職が、「大変暑い中早朝よりほうろく灸祈祷、平成三十年お盆孟蘭盆法要参詣ご苦労様です。暑い中にお経を読み共にお題目を唱える。また暑い中におときを作っていただき、共にいただく。暑い中にお寺の行事に参加するということ、は立派な修行です。六月十日の落慶式に多数ご参列いただきまして、無事本堂が



秋吉上人・灑水の儀

毎度ありがとうございます

米・肥料・農薬・たばこ

(全商品配達致します)

(有)あそしな米穀

代表取締役 阿蘇品 和彦

☎ (0968) 43-2526

無料電話 0120-23-2526

山鹿市大宮町641-2

熊本日新聞

(有)熊日山鹿南販売センター

山鹿市大宮町439

阿蘇品 雅彦

社会福祉法人 大道福祉会

若葉保育園

理事長 阿蘇品 洋介

開眼され立派に法要を行うことが出来ました。五月の大黒さんまでは仮本堂で執り行ないましたが、今回の法要からは本堂が改まりまして初めての六次行事の法要です。立派になりました。本堂を今後二〇〇年に亘って立派になっていくよう精進して守ってまいります。

■ 孟蘭盆御書を拜読 ■

今日はお盆でございます。法要の中で日蓮大聖人の孟蘭盆御書を拜読申し上げます。『悪の中の大悪は、我が身にその苦をうくるのみならず、子から孫と末え七代までも、かかり候いけるなり。善の中の大善も、又かくのごとし。』 悪事・悪いことを行うという事は、自分の身に苦しみを受けるのみならず、子・孫・七代までもかかってしまう行いである。



参詣の檀信徒

その反対に良い行い大きな善を積むことは、子・孫・七代までもかかっていくという尊い行いです。私たちは、些細な悪であっても善であつても、大きな悪であっても善であつてもこのように身に差し障ってくるという事を肝に銘じて暮らしていかなければなりません。因果応報は仏教の基本です。しっかりと善・悪をわきま

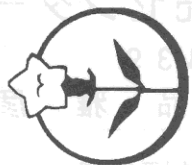
えて、少しでも善根・功德を積む生活をしていくことが大切です。」と挨拶されました。

■ 栗原筆頭総代挨拶 ■

次いで栗原筆頭総代が、「檀信徒の皆様方、大変暑い中菩提寺改修・落慶式後初めての六次法要、孟蘭盆お施餓鬼法要にお参りいただきまして、ありがとうございます。檀信徒の皆様方のお力添えで本堂の大改修がめでたく事故も無く完了しましたことは、ありがたしいことでございます。今後二百年に亘って本堂が、檀信徒の皆様方のご支援で現在以上に興隆していくものと思っております。今後ともご協力をいただくことばかりですが、菩提寺興隆の為にお力添えをいただきますよう、重ねてお願いいたします。

歴史と文化の街 日本一の装飾古墳と八千代座

山鹿温泉



清流荘

鹿門亭

〒861-0501 熊本県山鹿市下町1768  
 電話 山鹿 (0968) 43-2101(代)  
 ファックス (0968) 43-5153